



史跡 富士山

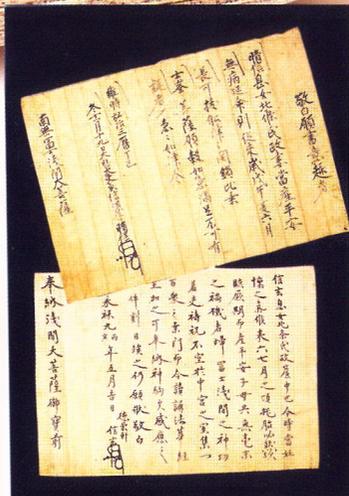
武田信玄公祈願所

富士御室浅間神社



御宝物

山梨県指定文化財



武田晴信(信玄) 願文2通

武田晴信(信玄)願文2通
晴信(信玄)が武田・北条・今川の三国同盟のため北条氏政に嫁がした長女黄梅院の安産を願う当社に奉納した願文。願いが叶えば船津の関所を開放すると記している。

黄梅院は氏政との間に北条家五代目当主となった氏直などを生んでいる。

古文書²³通

信虎、信玄、勝頼の武田三代及び家臣をはじめ、武田家滅亡後統治した徳川の臣の印判状、許定書、指令状等。

勝山記

五六四年から五六六年の間。

法華宗の僧によって書き継がれたといわれ、山梨県の中世を研究する上で、級の資料である。ほぼ毎年のように戦や災害が起っていたこと、そのために多くの人々が犠牲になっていた事を克明に記している。

その一方で、川除(永禄二年)や用水路の開設(天文二三年)など、この地域の人々が様々な開発によって生活の安定を保とうとしていたことがうかがえる。

武田不動明王(木像)

武田信玄目刻といわれ、戦国時代の武将らしさのある剛健な姿。

聖徳太子(木像)

聖徳太子は富士山最初の登山者といわれる。像は乗馬姿で江戸時代初期の作といわれている。

角行像(鋳物)

角行は、富士講の祖。

像は、富士講行者「村上光清」の菩提寺である駒込の専修院に祀られていたが、角行没二〇〇年にあたる一八四五年(弘化二年)に報恩のため当社へ奉納したもの。



勝山記



武田不動明王(木像)



聖徳太子(木像)



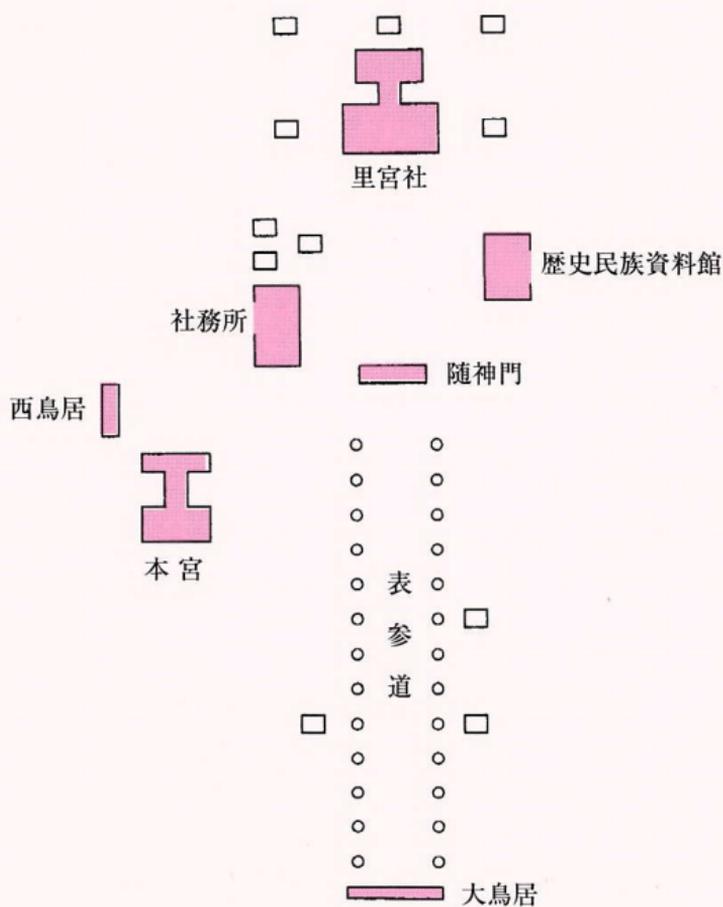
角行像(鋳物)



御神徳

当社は、坂上田村麿、藤原秀郷、源頼朝、武田家、徳川家など有力な武将の祈願所として、富士山鎮護、国の鎮め、開運の護り神として尊び奉られた。

特に室町時代には、武田三代(信虎、信玄、勝頼)及び領主小山田家及び当地大原郷の小林家からは、大きな庇護を受けるとともに、戦勝祈願(商売繁昌)、領民和楽、子孫繁栄(婚姻・子授け・安産)の霊神として尊敬されてきた。



富士山最古の神社 武田信玄公が崇拝



現在の建物は、一六一二年(慶長一十七年)に徳川家の臣で当時当地方の領主鳥居成次が造営、その後四回の大改修を経たものを、永久保存のため昭和四十九年に現在地へ遷祀したものである。

構造は、一間社入母屋造り、向拝唐破風造り、屋根は檜皮葺形銅板葺きで桃山時代の特徴をもったすぐれた建造物である。昭和四十六年別表社に列せられる。

ご祭神

木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)

本宮

国重要文化財

富士山最古の社。

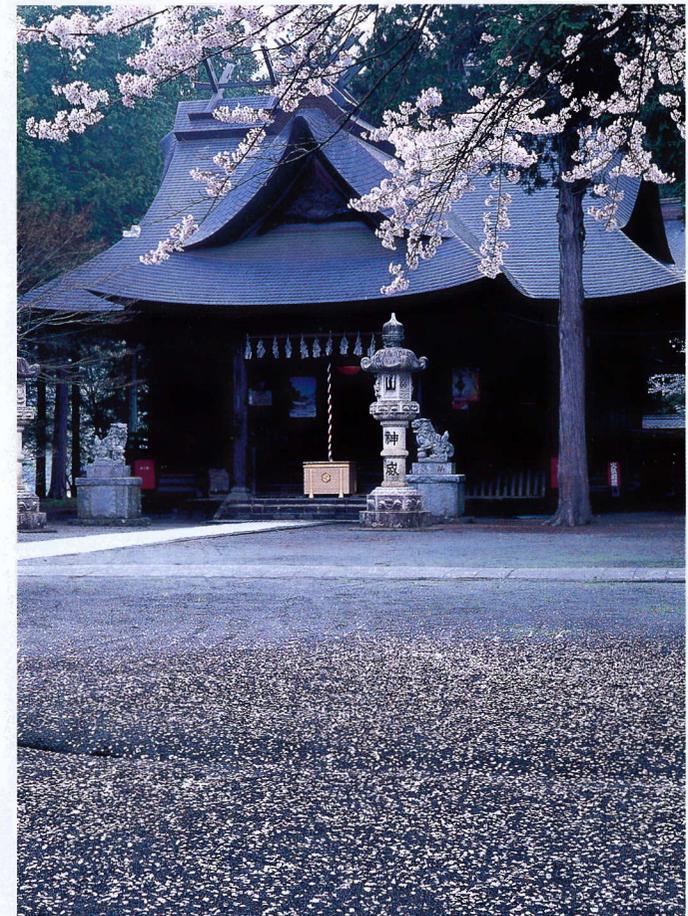
六九九年(文武天皇の御世)藤原義忠公が霊山富士二合目へ奉斎。

七二二年(養老四年)雨屋建立。

八〇七年(大同二年)に坂上田村麿郷が蝦夷征伐の御礼として社殿を創建。

噴火のための数次にわたる炎上と、自然条件厳しい場所のために腐朽激しく、そのつど皇室及び、武田家をはじめとした有力な武将等により再興が重ねられてきた。





特殊神事（流鏝馬）

九四〇年（天慶三年）藤原秀郷が平将門の反乱を鎮定した帰途、戦勝を祝い御礼祭を執行し、流鏝馬を奉納したことに始まる。

武田流鏝馬神事は、出陣式から始まり、かぶら矢奉献などの儀式の後、太鼓の合図で次々に砂煙りを上げて疾走する馬から矢を射る戦国絵巻さながらの流麗さである。

里宮

九五八年（天徳二年）村上天皇が、崇敬者の礼拝儀祭の便を図るため、老松繁る現在の場所へ建立。

以来武田家、小山田家、徳川家からあついで信仰や手厚い庇護を受けて来た。

現在の建物は、明治二二年に再建。

河口湖に面し、喧騒と離れた静寂の中で、歴史の風を感じられる。

主な祭り

一月 一日	歳旦祭
一月 十五日	祈年祭
二月 十一日	建国記念祭
四月 二五日	春季大祭（はな祭）
四月 二九日	流鏝馬
七月 一日	大祓式（茅の輪くぐり）
九月 九日	秋季大祭（神輿祭）
十一月 十五日	新嘗祭
十一月 中旬	七五三祈願祭



■交通のご案内
河口湖駅から湖畔周遊レトロバスで10分 富士御室浅間神社下車
中央自動車道河口湖I.C.より車で12分

武田信玄公祈願所

富士御室浅間神社

山梨県南都留郡富士河口湖町勝山3951

TEL・FAX (0555) 83-2399

<http://www.fujiomurosengenjinja.jp>